



寒さにもコロナにも負けないゾ！

やっと季節らしい冬の寒さになってきました。毎朝登校する子どもたちの手がポケットに伸び、背中を丸めて歩く姿が見られます。それでも、「おはよう」と声をかけるとちゃんと目を見て「おはようございます」と返してくれます。朝から寒い中PTA役員の方々も登校に付き添い、校門前で登校する子どもたちに声をかけてくださっています。子どもたちを育てようとしてくださる思いに感謝の気持ちでいっぱいです。コロナも第3波が心配になってきました。学校はマスク・手洗い・消毒・換気など感染予防に取り組みながら、平常通り教育活動を行っています。引き続き、ご家庭におかれましても意識を高めながら、感染予防にご協力ください。



12月の行事予定

- 1日 (火) 人権集会 チャレンジT
- 2日 (水) 全校集会
- 4日 (金) スクールカウンセラー来校
- 8日 (火) ALT チT
- 9日 (水) 児童集会 クラブ
- 11日 (金) 授業参観・懇談会
- 14日 (月) 読み聞かせ
- 14日 (月) ～18日 (金) 学力テスト週間
- 15日 (火) チT はまゆう号
- 16日 (水) 交流給食 共遊
- 18日 (金) スクールカウンセラー来校
- 21日 (月) 4年生イングリッシュキャンプ
- 22日 (火) チT ALT
- 24日 (木) 全校集会 水曜日課全校5校時授業
- 25日 (金) ～1月7日 (木) 冬休み

「大きなかぶ」と「小さなかぶ」

「佐世保明るい社会づくり運動推進協議会」様より菜園への助成金をいただき、冬野菜を育てています。25日 (水) には、1・2年生がカブを収穫しました。

カブと言えば思い浮かべるのは、国語の教科書にある「おおきなかぶ」(ロシア民話)です。おじいさんがかぶをひっぱって、おばあさんがおじいさんをひっぱって・・・と次々に人が連なってもなかなか抜けないカブを、最後にはネズミというとても小さな動物が手伝ってくれて、やっと抜けるのです。小さくてもネズミがいなかったならカブは抜けませんでした。かわいくて、ちょっと深い話ですね。

その「おおきなかぶ」のお話が大好きな子どもたち。この本物のカブは種から育てました。小さな小さな種からこんなに大きなカブになったので、さぞや感動しただろうと思っていると、「小さ〜い」と子どもの声。お話と比べたのですね。子どもたち、これが現実です。おいしいカブ料理を食べて、冬を楽しんでください。



赤い羽根募金のご協力、ありがとうございました

先日17日～18日に、運営・生活委員会の子どもたちを中心に赤い羽根の共同募金に取り組みました。ご家庭の皆様のご協力を得て全部で**3828円の募金額**となりました。中には「僕の貯金箱のお金を入れてきた」とか「お小遣いから出しました。」という子どもたちもいて、心が温かくなりました。

集まったお金は佐世保市社会福祉協議会を通して佐世保市の福祉に役立てられます。ご協力ありがとうございました。

吉井歴史探訪③

【直谷城址（長崎県文化財指定） ②直谷城の中は…？】

直谷城の中は、今でもびっくりするくらいいろんな遺構が残されています。それぞれの遺構の保存状態が良いことが、この遺跡の価値を高めているのです。

追手道(大手道) 表の道



搦手道(からめてどう) 裏口からの道



今も残る昔の石段



←**武者溜(むしやだまり)**

迎え撃つ兵が詰めていたところです。

→**空堀** 追手道に沿って、いく

つかの空堀が並んでいます。ここで侵入者を防ぎました。



矢石置き場（写真なし）台風の影響で今は登れませんが、矢石置き場に

は未だに兵士が武器として上から投げ落とすために集めた人頭大かその倍の大きさの石が数十個置いてあります。案内人の和田さん曰く「一番ロマンを感じる場所」だそうです。



井戸先ほどの空堀の内側に井戸の跡が残されています。水は籠城の時の生命線でした。他にももう一

つ井戸があり、更に裏手のほうから生活に使う水は引いていたそうですが、敵から攻められると使えません。しかしこの井戸が土塁の内側にあるおかげで籠城できたそうです。井戸はかなり大きく深かったそうで、中に降りるらせん状の段があるそうですが、今は埋まって見えません。井戸の奥には水神様が祭られています。

（参考；和田氏の話及び著作「直谷城と安徳天皇伝説」）

